



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	AGC旭硝子京浜工場 新研究棟等建設工事 新研究棟	階数	地上4階地下1階
建設地	横浜市鶴見区末広町1丁目1番地	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2020年12月 竣工	評価の実施日	2020年12月15日
敷地面積	26,387 m ²	作成者	株式会社類設計室
建築面積	12,900 m ²	確認日	2020年12月15日
延床面積	44,883 m ²	確認者	新川 啓一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 93%</p> <p>③上記+②以外の 93%</p> <p>④上記+ 93%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.6</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>従来の企業独自の中央研究所から、様々な協業企業と協創する「協創空間型の研究所」を構築するプロジェクトとして計画。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>施設の過半を占める実験研究空間については安全性能を確保する計画とした。4階のフロンティアオフィスについては、ハイサイドライトより自然光を導入し、昼光センサーによる照明制御を行い適切で最適な明るさ、かつ省エネに繋がる計画としている。外皮開口部は、全て遮熱ガラス(Low-Eガラス)の複層ガラスとして、空調負荷抑制を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>免震構造として大地震後も建物機能を保持する計画としている。「協創空間」は協業企業を迎えるにふさわしい空間として、外皮をガラスカーテンウォールによる開放的な空間とし、同時にガラスは遮熱ガラス(Low-Eガラス)の複層ガラスとして、空調負荷低減と同時に快適な空間となるよう計画している。</p>	<p>その他</p> <p>敷地入口から本建物にアプローチする屋外空間は、顧客を迎えるにふさわしい広さを確保している。歩道道を分離し安全を確保すると同時に、緑化を行い豊かな外構空間を計画している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>廊下、トイレは人感センサー制御として、照明等の無駄な電力消費を抑制する計画としている。全館LED照明として消費電力を削減、長寿命化で維持管理費を削減する計画としている。また、衛生設備は節水器具・自動水栓とし、水消費を抑制する計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>大量の水を使用する施設であるため、衛生設備は節水器具・自動水栓とし、また工業用水を使用し経常費用を低減する計画としている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物配置を可能な限り北側からセットバックし、周辺に建物日影が落ちない計画としている。また、屋上の空調室外機等からの騒音は、可能な限り敷地境界線から距離を確保すると同時に、騒音を抑制する目隠し壁を設置し、敷地外への騒音を可能な限り抑制している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

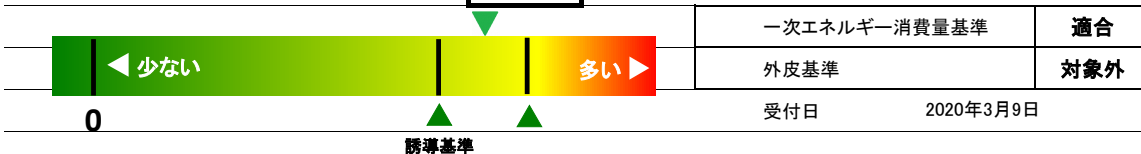
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **AGC旭硝子京浜工場 新研究棟
等建設工事 新研究棟**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **9** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①断熱性の高いALC板を外壁とし、開口部は遮熱(Low-E)複層ガラスとしている。
- ②4階ワルームオフィス、協創空間等について、窓やハイサイドライトによる採光を確保している。
- ③外気処理空調機は、インバーター制御にて小風量運転も可能にしている

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑩4階ワルームオフィス、協創空間等について、窓やハイサイドライトによる採光を確保し、快適な空間を形成している。
- ⑪十分な空調換気設備能力を確保し、社員が快適に執務できるようにしている。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫将来の組織改編や実験研究改編を想定し、フレキシビリティの高い計画としている。
- ⑬協働企業との協創空間と4階ワルームのオフィスで生産性の向上、スピードアップを図る計画としている。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑮免震構造を採用し、大地震後も機能維持を図る計画としている。
- ⑯屋外鉄骨の垂鉛めつき材、外壁吹付材のフッ素樹脂上塗り材の採用等、耐用年数の高い計画としている。
- ⑰設備機器、配管等について耐震性を有する支持方法にて計画している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入